

ED 外来概要

当医院では、男性用トイレ内に【EDカード】を設置してあります。受付で【EDカード】を提示していただくだけで、スムーズな流れで診察を受けていただくことができます。

ED(勃起障害)とは

EDとは、Erectile Dysfunctionの略で、「勃起障害」あるいは「勃起不全」と訳されています。勃起機能の低下の中で、男性なら多くの人に起こり得る病気です。専門的には「性交時に十分な勃起が得られないため、あるいは十分な勃起が維持できないため、満足な性交が行えない状態」と定義されています。具体的には、以下のような症状を指します。当てはまることがあれば、早めに治療を考えてみてください。

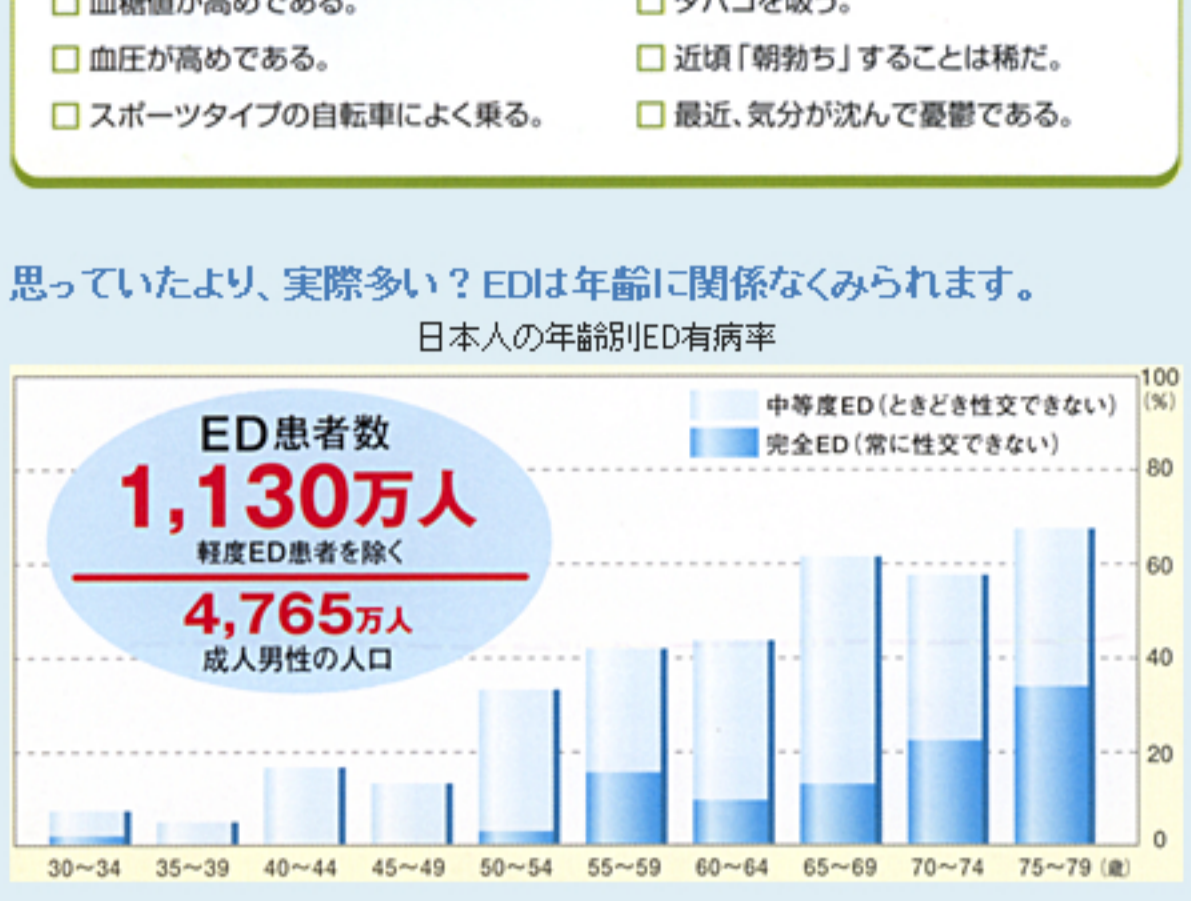
- 勃起の硬さが弱くなった
- 勃起が短時間でやえてしまう
- 一度萎えると再勃起が難しい
- 全く勃起しない

EDは生活習慣病の一種です。恥ずかしくありません。どうぞご相談下さい。

ED(勃起障害)かも？

EDという言葉は、今やすっかり市民権を得ましたが、「EDとは何か?」ということになると、まだ誤解が多いようです。

ED(勃起障害)の症状はいろいろ



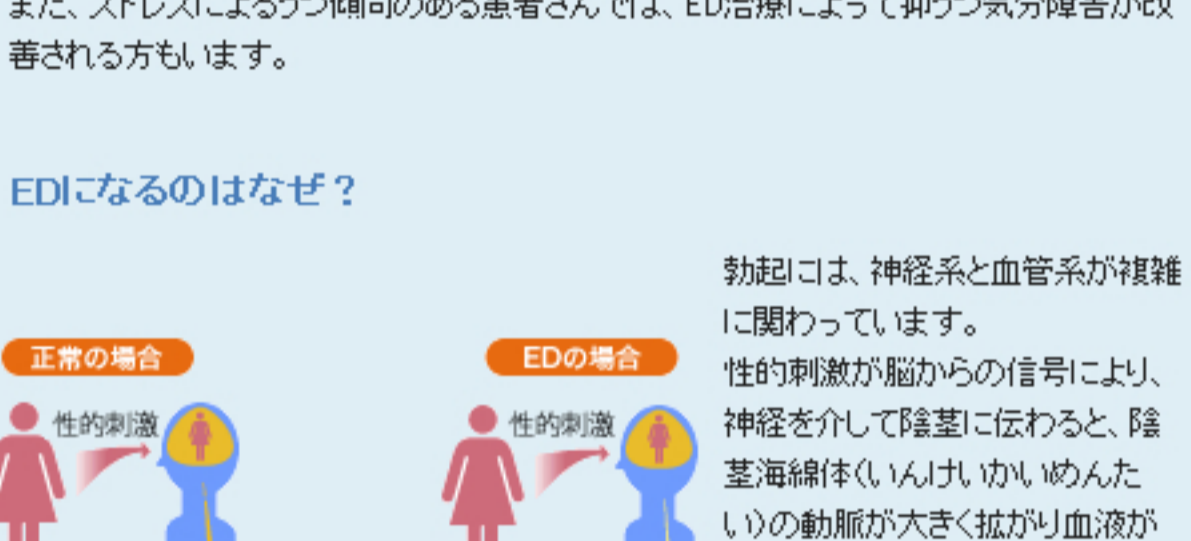
「全く勃起しない」状態だけをEDと呼ぶのではありません。「十分な勃起が得られない」「勃起を維持できない」... そのために満足な性行為を行うことができない状態をEDと呼びます。

普段の生活で次のような心当りは、ありませんか？

心あたりはありませんか？ ED-Check

<input type="checkbox"/> 4回に1回くらい、うまくいかない。	<input type="checkbox"/> 途中でダメになってしまうことがある。
<input type="checkbox"/> ウエスト85cm以上、肥満気味である。	<input type="checkbox"/> ストレスの多い毎日だと思う。
<input type="checkbox"/> 血糖値が高めである。	<input type="checkbox"/> タバコを吸う。
<input type="checkbox"/> 血圧が高めである。	<input type="checkbox"/> 近頃「朝勃ち」することは稀だ。
<input type="checkbox"/> スポーツタイプの自転車によく乗る。	<input type="checkbox"/> 最近、気分が沈んで憂鬱である。

思っていたより、実際多い？ EDは年齢に関係なくみられます。



高齢者人口の増加や生活習慣病の多様化、社会的ストレスの増大などにより、EDの患者数が実際に増えていると推測されます。国内のED患者数は推計1,130万人、40歳代の男性の3人に1人が該当するといわれています。

近年、効果的な飲み薬が登場し「治せる病気」になったことや、ED治療による様々な波及効果が明らかになり、EDがクローズアップされるようになってきました。しかし、治療を受けている人は90万人で、ED先進国であるアメリカの10分の1。日本人男性の多くが、手を伸ばせば届く幸せを享受していません。

EDとは特別なことではなく、ごありふれた身近な問題だということをごま、認識してください。

EDの場合と、そうでない場合。性生活の満足度は？ ED-Data

Q. 性生活に満足していますか？

EDを自覚している男性	EDを自覚していない男性	パートナーがEDだと認識する女性	パートナーがEDだと認識しない女性
とても満足 28.7%	とても満足 61.8%	とても満足 23.6%	とても満足 55.9%

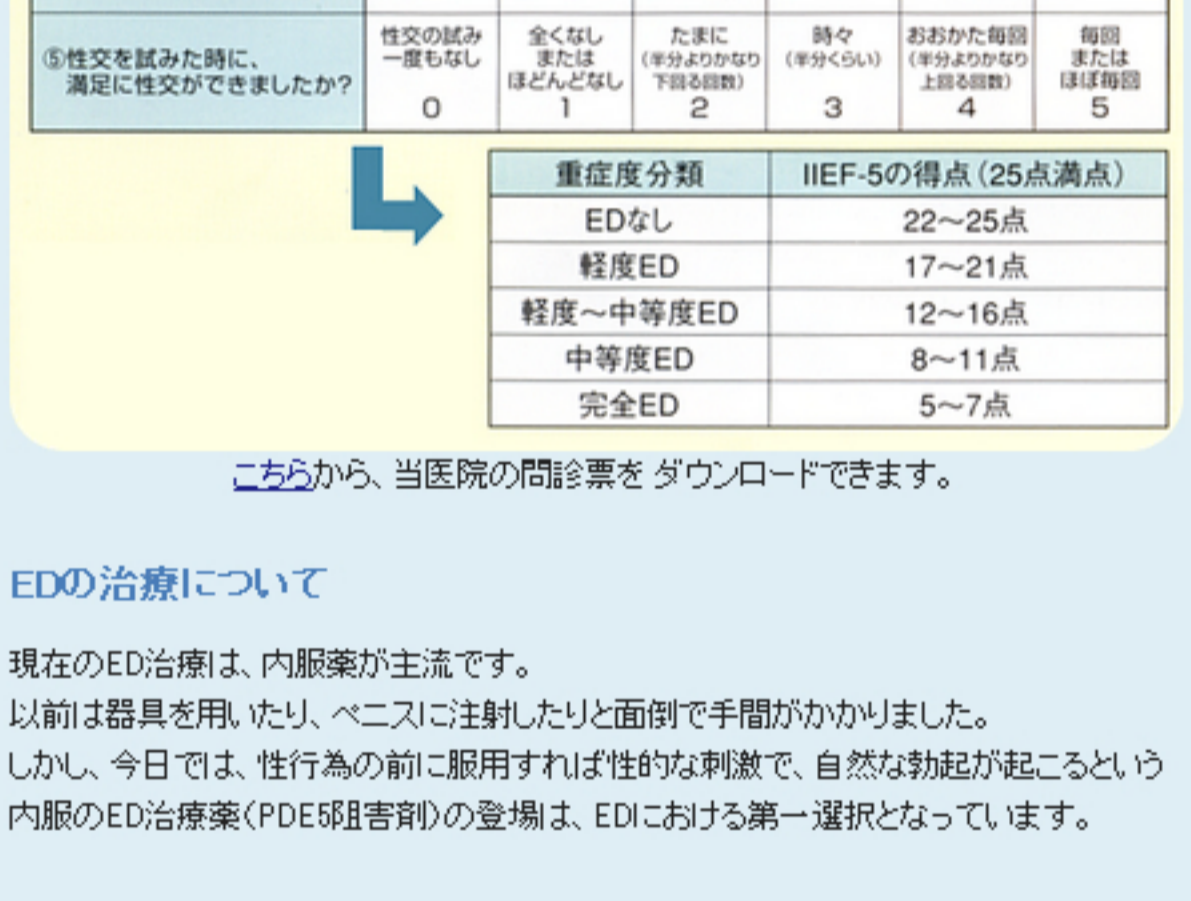
EDを自覚している人は、満足度が低い!

しかし「日常生活に影響がない」「性行為に関心がない」「恥ずかしい」などの理由で **実際に医療機関に相談した人はわずか4.8%**

ED治療の波及効果

例えば高血圧や糖尿病、脳卒中・心臓病の後遺症のある患者さんがEDの治療を受けると、このような病気の療養やリハビリに良い結果が現れることがしばしばあります。EDの治療効果を実感し「きつい」や「人生の喜び」を再確認できること、ご夫婦の関係が円満になることなどが、そういった生活習慣病の治療の励みになるでしょう。逆にEDの相談から高血圧や糖尿病が見つかることもあります。また、ストレスによるうつ傾向のある患者さんでは、ED治療によって抑うつ気分障害が改善される方もいます。

EDになるのはなぜ？



また、勃起現象は、海綿体に流れ込んだ血液を、性行為が終わるまで溜め込んでおくことで成立します。それこそ陰茎の血管と神経が健康に保たれていることが重要で、ですから血管障害や神経障害をおこす危険因子は、EDの原因ともなります。血管障害は加齢とともに進行しますが、高血圧や糖尿病などがあると、より早く進行し、EDのリスクが高くなります。

EDの原因は人それぞれ

確かに歳を重ねるとEDになる割合は高くなります。しかし、最近では歳のせいだけではいけません。知らず知らずのうちストレスをためたり、不規則な食事を続けていたり、車での通勤による運動不足、連日のお酒の飲みすぎ、喫煙など毎日の生活パターンが原因となって起こることが多いです。糖尿病、高血圧、高脂血症などの生活習慣病の方は、EDになるリスクはさらに高くなります。

加齢
年齢と共にEDの割合は増えます。加齢によって糖尿病や高血圧などの生活習慣病を患う人が多くなることも原因の1つです。

生活習慣病
EDの原因として最も多いのが、糖尿病や心臓病、高血圧、高脂血症などの生活習慣病です。

ライフスタイル
アンバランスで不規則な食事や運動不足、喫煙、お酒の飲み過ぎ、休養不足などの悪いライフスタイルを長く続けることによってもEDになる場合があります。

心理的な要因
ストレス、不安、うつなどの心理的な要因。どちらかといえば20～40代の若い人に多いようです。

神経系の障害
脳出血、脳腫瘍、パーキンソン病、アルツハイマー病などは自律神経障害を起こすため、EDの原因となります。

その他
前立腺肥大症や前立腺炎、精巣静脈瘤など泌尿器科系の疾患。前立腺がんや膀胱がん、直腸がんなどの手術後、その周囲の血管や神経を傷つけた場合も、EDを引き起こすことがあります。

EDかどうか調べたい

EDの診察ってどうするんだろう...? 多くの方が不安に思っているようです。EDの程度を調べるためにも、まず、下図のようなIIEF(国際勃起機能スコア)-5という簡単な問診票を使います。さらに、必要に応じて、喫煙習慣・生活習慣病などの病歴やストレスなどの要因についてお伺いすることもあります。

EDの診察は問診票で行います

クリックすると画像が拡大します。

5つの質問に答え、その合計点によりEDの重症度を判定します。**最近6か月で、該当するところに○をつけてください。**

① 勃起を維持する自覚の程度はどれくらいありましたか？	非常に低い 1	低い 2	普通 3	高い 4	非常に高い 5	
② 性的刺激による勃起の硬さ、何回挿入可能な勃起の回数になりましたか？	性的刺激一度もなし 0	全くなしまたはほとんどなし 1	たまに(半分以下の回数) 2	時々(半分くらいの回数) 3	おおむね毎回(半分より多い回数) 4	毎回またはほぼ毎回(ほぼ毎回) 5
③ 性交中、挿入後何回勃起を維持することができましたか？	性交の試み一度もなし 0	全くなしまたはほとんどなし 1	たまに(半分以下の回数) 2	時々(半分くらいの回数) 3	おおむね毎回(半分より多い回数) 4	毎回またはほぼ毎回(ほぼ毎回) 5
④ 性交中に、性交を終了するまで勃起を維持するのはどれくらい困難でしたか？	性交の試み一度もなし 0	ほとんど困難 1	かなり困難 2	困難 3	やや困難 4	困難でない 5
⑤ 性交を試みた時に、満足に性交ができましたか？	性交の試み一度もなし 0	全くなしまたはほとんどなし 1	たまに(半分以下の回数) 2	時々(半分くらいの回数) 3	おおむね毎回(半分より多い回数) 4	毎回またはほぼ毎回(ほぼ毎回) 5

重症度分類	IIEF-5の得点(25点満点)
EDなし	22～25点
軽度ED	17～21点
軽度～中等度ED	12～16点
中等度ED	8～11点
完全ED	5～7点

こちらから、当医院の問診票をダウンロードできます。

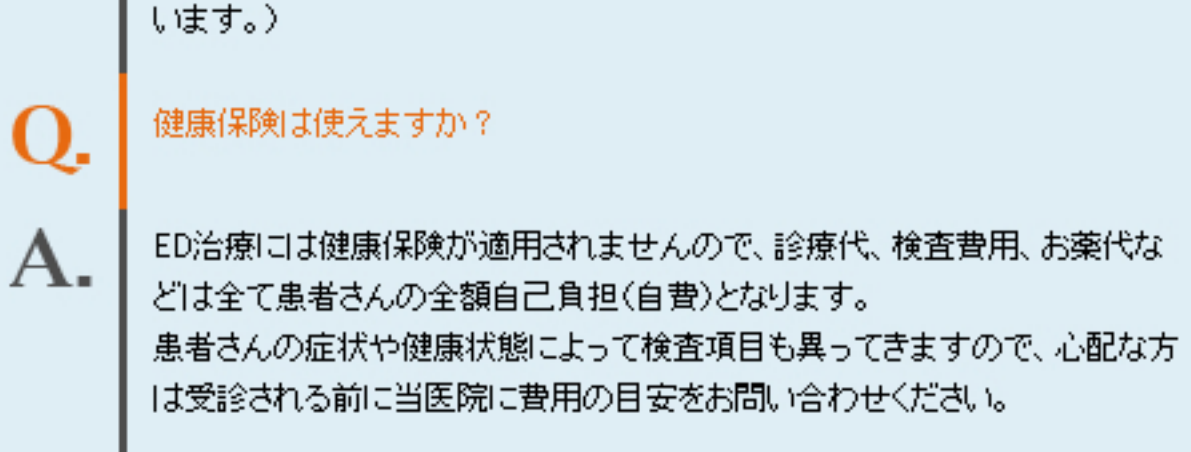
EDの治療について

現在のED治療は、内服薬が主流です。以前は器具を用いたり、ペニスに注射したりと面倒で手間がかかりました。しかし、今日では、性行為の前服用すれば性的な刺激で、自然な勃起が起こるとい内服のED治療薬(PDE5阻害剤)の登場は、EDにおける第一選択となっています。

ED治療薬(PDE5阻害剤)の作用メカニズム

内服のED治療薬(PDE5阻害剤)は、ペニスへの血液流入量増加を助けることにより、勃起を助けます。但し、催淫剤ではないので、外部からの性的刺激なしには勃起しません。

ED治療薬(PDE5阻害剤)の効果



ED治療薬(PDE5阻害剤)には3種類あります

ED治療薬(PDE5阻害剤)は、医師の処方が必要です。現在は、3種類の内服薬が発売されています。個々の患者さんにとって最適な選択が増えたことであり、より自分に合ったED治療ができるということです。

よりスムーズで、より自然な、EDの解消のために、当医院では、それぞれの内服薬の特徴を知っていただき、医師の指導のもとでの服用をしていただいています。

※心臓の病気や血圧のお薬を服用している場合、ED治療薬(PDE5阻害剤)を使用できない場合もあります。必ずご相談ください。
※特に狭心症の治療で、硝酸薬(ニトログリセリン等)を使用している場合は、ED治療薬(PDE5阻害剤)を服用できません。

※ED治療は内科、循環器科の知識を必要とします。また最近インターネットの普及により、インターネット上の偽物を売るサイトが見受けられます。危険を冒して不確かなルートから薬を入手することは重篤な事態を招く恐れがあります。

《EDと糖尿病について》 ☆院長からのメッセージ

ED治療は進化しています。もっと気軽に考えていきましょう！糖尿病は、血管や神経に障害が起こるために、生活習慣病の中でのEDを併発する確率が最も高い疾患です。当医院では糖尿病の患者さんも多いので、それだけEDの悩みも多いです。ですから【ED外来】を設けて相談に乗っています。

EDIは長年これといった治療法が無かったのですが、ED治療薬(PDE5阻害剤)の登場でそれは変わりました。失明などの合併症に比べて深刻ではないという考えもありますが、ED治療は患者さんのQOL(クオリティ・オブ・ライフ)にとって非常に重要であると私は考えています。EDの相談に来られる患者さんは30代から70代まで幅広く、治療がうまくいった方は例外なく「人生が変わったようだ」と言われます。自信が付き、全てに積極的にこなせる面でもうまいくらいになりました...そんな話もよく聞きます。

「何処に相談すればいいのかわからない」という方は、インターネットで当医院のように、ED診療を掲載している病院を探すことをお勧めします。最近では、泌尿器科だけでなく当医院のように内科でも積極的に取り組んでいる病院もあり、患者さんに対する対応も整えているので安心してください。

EDの治療は、まず初診では問診票を使ってEDの程度を調べます。さらに、現在服用しているお薬などを確認し、問題が無ければ治療薬を処方するという流れです。1回目は緊張して効かなかったけれど、2回目、3回目でもうまくなったというケースも多いので、焦らないでリラックスした環境を作ることが大事だとアドバイスしています。またED治療薬は催淫剤ではないので性的刺激が無いと勃起しません。飲むだけで勃起すると誤解されている方も多くですが、

ED治療薬は3種類あり、患者さんは選べます。

そもそも勃起とは性的な刺激によって陰茎動脈が拡張し、血液がペニスに流れ込んだ状態です。ですから神経系や血管系の疾患である糖尿病や循環器系の疾患にかかると、うまく勃起ができなくなる場合があります。ED治療薬(PDE5阻害剤)はペニスに血液を送る動脈を広げる働きをもっているのです。専門的なこととなりますが動脈を細くして血流を妨げる物質【PDE5】と、ED治療薬はその薬理作用から【PDE5阻害剤】と呼ばれています。

現在、国内で処方されるED治療薬(PDE5阻害剤)は3種類あることを、ご存知ですか？同じ種類の薬でも、例えば飲んでから効果が現れる時間に差があったり、食事やアルコールの影響を受けやすいものと受けにくいものがあったり、また個人の体質によって効き方が違うこともあります。

当医院では、それぞれの特徴を説明して、患者さんに選んでいただくことになっていますが、両方を試してみたいという方もいらっしゃいます。どちらかしろ【PDE5阻害剤】は安全性が高く、習慣性もありませんので、患者さんの選択肢が増えたということも、とても喜ばしいことだと考えています。

よくあるご質問

Q. 何科で行けばいいのでしょうか？
A. 泌尿器科や内科をはじめ、多くの診療科で診察が受けられます。また、専門外来(ED、性機能、男性更年期など)を設置している場合もあります。まずは、かかりつけ医や近隣の医療機関にご相談ください。

Q. 受付で何と切り出せばいいのでしょうか？
周囲の患者さんの視線も気になりますが...
A. 受付にて「EDの相談に来ました」と言っておけばOKです。当医院は、多くのED患者さんも来院されていますので、スタッフも対応を心得ています。周りの患者さんが気になる方は、男性用トイレ内に【EDカード】を設置してありますので、受付で【EDカード】を提示していただくだけで、スムーズな流れで診察を受けていただくことができます。

Q. EDの薬は、どのように作用して効果が現れるのでしょうか？
A. EDの原因についてでもお話ししたように、勃起現象をスムーズに起こすポイントは陰茎の血流量です。ED治療薬(PDE5阻害剤)は陰茎の血管を拡張して海綿体の血流量を増やし、勃起を促し持続させます。また、陰茎の血管障害の進行を抑える作用もあり、それによってEDの悪化を防ぐ働きもあると考えられています。

Q. ED治療薬(PDE5阻害剤)の副作用は？
A. まれに血圧が若干下がることがありますが、通常それが問題となることはありません。ただ、降圧薬を服用している場合などは注意が必要ですから、医師の指示を守ってください。血圧低下の他にも、軽い頭痛や赤視症などの副作用がありますが、いずれも一時的なものです。但し、狭心症治療薬のニトログリセリン製剤などと同時に服用すると、過度な血圧低下が起きることがあるため、併用してはいけないことを十分理解しておいてください。

なお、患者さんから「薬を飲み続けると効果が弱くなるのでは?」という質問をよく受けますが、毎日継続して飲む薬ではないので、その心配はありません。

Q. EDの診察までのように行われるのでしょうか？

A. まず最初に簡単な問診票(症状やストレスの状況、アレルギーの有無、服用している薬などに関する質問票)に記入していただきます。その後、年齢あるいは状態によっては、必要な検査を行うこともあります。(必ず全員の方に検査を行う訳ではありません。必要と判断された場合にのみ行います。)

Q. 健康保険は使えますか？

A. ED治療は健康保険が適用されませんので、診療代、検査費用、お薬代などは全て患者さんの全額自己負担(自費)となります。患者さんの症状や健康状態によって検査項目も異なりますので、心配な方は受診される前に当医院で費用の目安をお問い合わせください。